

## 栄村自然学校「林業体験と秘密基地づくり」への協賛

平成26年9月28日(日)に、栄村青少年育成協議会(長野県栄村)は、近年子供たちが社会環境等の変化により山林に入る機会が少なくなったことから、山を身近に感じてもらうことを目的とした「栄村自然学校」を、地元栄小学校の児童を対象に開催しました。

栄村は、長野県最北端で新潟県との県境に位置し、町内の飯山線森宮野原駅で昭和20年2月に記録した7.85mの積雪量の記録が、現在もJR日本最高積雪地点となっているなど、日本有数の豪雪地帯です。

また、東日本大震災の翌日(平成23年3月12日)未明に発生した「長野県北部地震」は、栄村で「最大震度6強」を記録し、町内全域で家屋の倒壊、道路や鉄道の損傷など甚大な被害を受けたことは、まだ記憶に新しいところです。

長野水源林整備事務所(長野市)は、地域活動支援としてこの「栄村自然学校」に参加し、栄小学校の児童を対象に、森林教室の開催と水源林造成事業地において、栄村森林組合と協力して、間伐の体験学習教室を実施しました。

当日は、初秋を感じる爽やかな風が吹く一方、汗ばむほどの陽気に恵まれる中で、まず、栄小学校全児童43名を対象に、森林教室を開催しました。

森林教室では「水をはぐくむ森林のはなし」として、具体的に長野県内の家庭で使う一日当たりの水の量や、その水を貯めるために必要な森林の面積の話などを、クイズ形式で説明しました。

また、そのほかの森林の働きとして、森林が「土砂崩れなどを防ぐ自然の堤防」や「空気をつくる自然の工場」の役割を担っていることを説明するとともに、森林を守っている人たち(森林組合の方々)の仕事を紹介し、森林の必要性を理解していただけるよう努めました。

その後、栄小学校5・6年生13名と栄中学校のリーダー2名は、当事務所職員や森林組合職員と現地(水源林造成事業地 平成12年度植栽 スギ)に移動し、林業体験をしていただきました。

林業体験では、一人1・2本の間伐木を自らノコギリで伐倒しました。

子どもたちからは、「自分が倒した木の年輪を数えて感動した。」、「木は自然のために役立っているな、と感じた。」、「森林の大切さを理解した。」などの感想があり、盛会のうちに林業体験を終了しました。

今回の林業体験を通じ、参加者に「自然学校」の目的である「山を身近に感じてもらうこと」はもとより、「水源林造成事業の重要性」や「森林の役割、森林管理の大切さ」についても理解を深めていただくことが出来たと感じています。

長野水源林整備事務所は、今後も地域の森林に関わる活動に貢献してまいります。



屋外での森林教室



児童の間伐体験



児童の間伐体験